

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立平石中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり、その上で、家庭や地域と一緒に児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考え方から、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年（国語、算数、理科、児童質問調査）

中学校 第3学年（国語、数学、理科、生徒質問調査）

4 本校の参加状況

- | | |
|------|----|
| ① 国語 | 7人 |
| ② 算数 | 7人 |
| ③ 理科 | 7人 |

5 留意事項

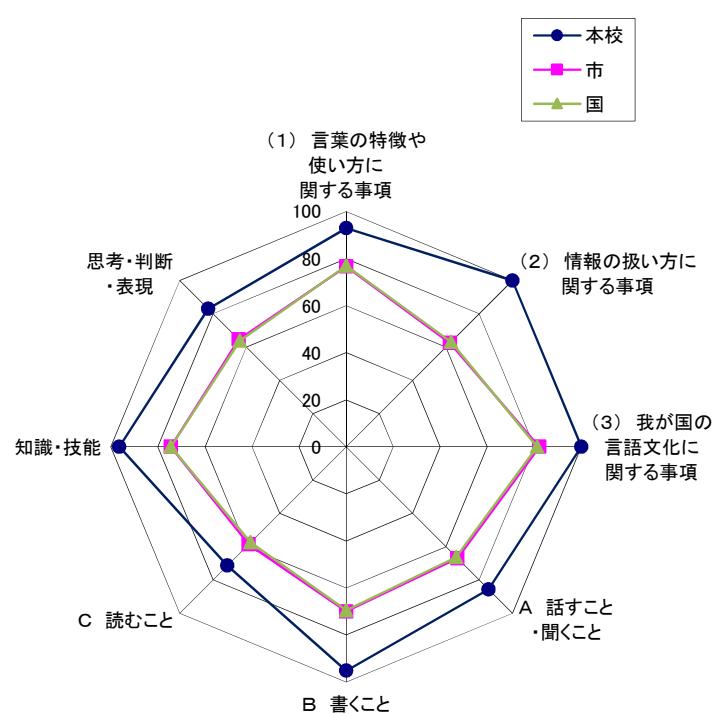
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものではないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立平石中央小学校第6学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	92.9	76.7	76.9
	(2) 情報の扱い方に関する事項	100.0	62.4	63.1
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	100.0	82.1	81.2
	A 話すこと・聞くこと	85.7	67.0	66.3
	B 書くこと	95.2	70.0	69.5
	C 読むこと	71.4	58.6	57.5
観点	知識・技能	96.4	74.5	74.5
	思考・判断・表現	82.9	64.6	63.8
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

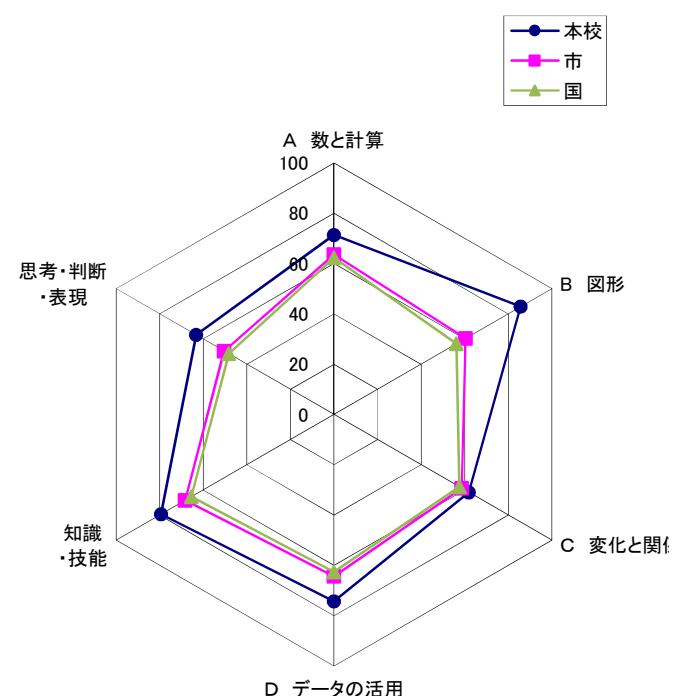
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は92.9%で、市の平均よりかなり高い。 ○習得済みの漢字の書き取りの設問の正答率は、85%以上だった。	・漢字の読み書きは引き続き指導し、教科を問わず正しい言葉や漢字の表記の指導を行い、さらに力を伸ばしていく。 ・文章の種類とその特徴を見極めるために、校内及び家庭での読書活動を充実させ、多くの物語、そして、説明文や意見文など、様々な種類の文章に触れる機会を設けることでそれぞれの文章の特徴を捉えられるよう指導していく。
(2) 情報の扱い方に関する事項	平均正答率は100%で、市の平均よりかなり高い。 ○情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかを見る設問では、市の平均より4.7ポイント上回った。	・今後も様々な種類の資料に触れ、説明の仕方や書き表し方の違いを確認しながら、情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を表現する言葉を取得し、書き表せるように指導していく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は100%で、市の平均よりもかなり高い。 ○時間の経過による言葉の変化や世代による言葉のちがいに気付くことができるかを見る設問では、市の平均を17.9ポイント上回った。	・日常的に行っている朝の学習の読書指導や各授業の中で取り入れてられている文章をよく読んで理解する指導を引き継ぎ行うとともに、図書館の利用を推進して、より言語文化に親しむ機会を増やしていきたい。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は85.7%で、市の平均よりもかなり高い。 ○自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉えることができるかどうかを見る設問では、市の平均を大きく上回った。 ●話し手の考え方と比較しながら、自分の考え方をまとめるができるかどうかを見る設問では、市の平均とほぼ同じだった。	・日々の授業や学級活動の中で、話合い活動の充実を図り、自分の考え方や意見を分かりやすく伝えることを意識して話すことができるよう引き継ぎ支援していく。また、国語の授業では、話合いの目的や意図に応じて、資料を用いたり、構成を意識させるよう引き継ぎ指導していく。
B 書くこと	平均正答率は95.2%で、市の平均よりもかなり高い。 ○目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考え方を伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかを見る設問では、正答率は100%で市の平均を大きく上回った。	・様々な周囲の図表やグラフなどに触れ、どのような言葉を使うと資料と考えのつながりを説明できるのか、どのような言葉を使うとより説得力をもたらされたのかなど、自分の考え方を伝わる書き表し方ができるように引き継ぎ指導していく。
C 読むこと	平均正答率は71.4%で、市の平均より高い。 ○目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけることができるかどうかを見る設問の正答率は85.7%で、市の平均を26.7ポイント上回った。 ●時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができるかどうかを見る設問では、市の平均より9.6ポイント下回った。	・文章と図表を結びつけたり、表現の効果を考えたりすることができるようにするために、事柄の順序や必要な情報に注目しながら内容を読みとる指導を今後の授業の中で取り入れて、文章の内容を的確に捉えられる児童の育成を目指していく。

宇都宮市立平石中央小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	71.4	63.6	62.3
	B 図形	85.7	60.4	56.2
	C 測定	50.0	56.9	54.8
	C 变化と関係	61.9	58.6	57.5
	D データの活用	74.3	64.4	62.6
観点	知識・技能	79.4	68.3	65.5
	思考・判断・表現	63.3	50.4	48.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

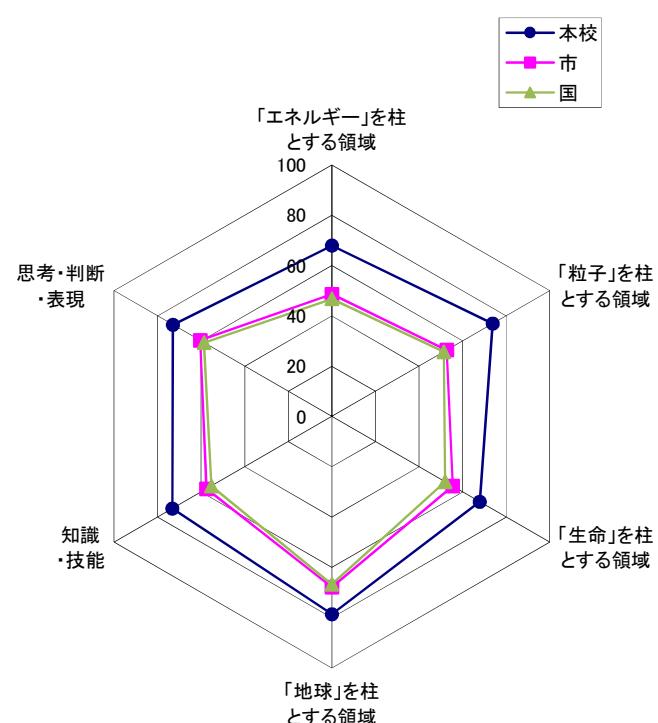
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点	
		○良好な状況が見られるもの	●課題が見られるもの
A 数と計算	平均正答率は71.4%で、市の平均を上回っている。 ○異分母の分数の加法の計算をすることができるかどうかを見る問題で、 $1/2 + 1/3$ の計算する問題の正答率が100%になり、市の平均を大きく上回った。	・問題文が長かったり、示された資料が多かったりする上手く式に表せないこともある。類題に取り組ませ、表から必要な数値だけを読み取り、式に表せるようにしていく。	
B 図形	平均正答率85.7%で、市の平均を大きく上回っている。 ○角の大きさについて理解しているかどうかを見る問題で、角をつくる二つの辺をそれぞれ伸ばした图形の角の大きさについて分かることを選ぶ問題の正答率が100%になり、市の平均を大きく上回った。 ○台形の意味や性質について理解しているかどうかの問題で、方眼上の五つの图形の中から台形を選ぶ問題の正答率が市の平均を大きく上回った。	・角の大きさの理解や台形や平行四辺形の性質の理解はできていることがうかがえる。さらに、图形の面積を求める時に、公式を用いる上で、不要な辺の長さを示した図を使うなど、图形と公式を関連付ける練習を繰り返し行うようにして、より深い理解を図っていく。	
C 变化と関係	平均正答率61.9%と、市の平均を上回っている。 ○使いかけのハンドソープがあと何プッシュすることができるのかを調べるために、必要な事項を選ぶ問題の正答率が市の平均を上回った。 ●はかりが示された場面で、はかりの目盛りを読む問題の正答率が市の平均を下回った。	・はかりの目盛りを読むことの理解が不十分であることがうかがえる。はかりの目盛りの読み方を再度確認し、色々な場面を設定してはかりを読めるような練習をして、はかりを正確に読めるようにしていく。	
D データの活用	平均正答率は、市の平均を上回っている。 ○示された表から、「春だいこん」や「秋冬だいこん」より「夏だいこん」の出荷量が多い都道府県を選ぶ問題では、正答率が100%になり、市の平均を大きく上回った。 ●棒グラフから、2022年の全国のブロッコリーの出荷量が2002年の出荷量の何倍かを読み取って選ぶ問題の正答率が市の平均を下回った。	・簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選択することはできるので、今後は読み取るだけではなく、データを比較して言葉や数を用いて記述する課題について考える場を設定して習熟を図っていく。	

宇都宮市立平石中央小学校第6学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	67.9	48.6	46.7
	「粒子」を柱とする領域	73.8	52.8	51.4
	「生命」を柱とする領域	67.9	55.5	52.0
	「地球」を柱とする領域	78.6	67.9	66.7
観点	知識・技能	73.2	57.5	55.3
	思考・判断・表現	73.0	60.4	58.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	<p>全ての問題で、平均正答率は67.9%と、市よりも上回っている。</p> <p>○電流がつくる磁力の強さとコイルの巻数の関係をよく理解し、ベルをたたく強さを強くするためにはどのようにすればよいか考える問題に適切に答えることができた。</p> <p>●アルミニウム・鉄・銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれの性質に当てはまるものを選ぶ問題に課題が見られた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習することに課題意識をもてるよう、生活経験と課題を結び付けるような問い合わせをしたり、既習事項と関連する話題を提示をしたりするなどの単元導入の工夫に取り組む。 ・実験や観察を複数回実施することで、児童に経験を積ませ、特徴や規則性について、自ら気付き、考えを深められるようにする。 ・考察において、話し合ったり、自分の考えを文章にしてまとめたりするなど、考えを言語化する活動を通して、理科的な見方や考え方を育てる。 ・学級全体での意見交換やグループ活動を通して、他者の考えに触れながら、思考を広げたり深めたりする機会を積極的に設ける。 ・身の回りの事象を学習した理科の知識を使って説明したり、学習した内容を工夫してノートにまとめるなど、知識を活用することで、学んだ意義を実感できるようにする。
「粒子」を柱とする領域	<p>全ての問題で、平均正答率は73.8%と、市よりも上回っている。</p> <p>○水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識と関連付ける問題に適切に答えることができた。</p> <p>●水の温まり方についての考察から、不足している実験について見極める問題についてやや課題が見られた。</p>	
「生命」を柱とする領域	<p>平均正答率は67.9%と、市を上回っている。</p> <p>○ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身に付いており、問題について適切に答えることができた。</p> <p>●顕微鏡で見たいものを視野の中央に移動させるための操作方法を答える問題にやや課題が見られた。</p>	
「地球」を柱とする領域	<p>平均正答率は78.6%と、市を上回っている。</p> <p>○粒子の大きさと水のしみこみ方の関係を調べる実験について、条件をどのようにすればよいか考える問題について適切に答えることができた。</p> <p>●粒子の大きさと水のしみこむ時間に関する実験結果を基に、粒子の大きさの違いによって水のしみ込み方が変わる理由について考える問題に課題が見られた。</p>	

宇都宮市立平石中央小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

- 「(1)毎日朝食を見る、(2)(3)毎日の就寝・起床時刻」の肯定的回答が100%となっていることから、家庭で規則正しい生活を送っていることがうかがえる。
- 「(5)自分のよいところがある、(6)先生はよいところを認めてくれる、(7)将来の目標」などの肯定的回答が100%となっていることから、自己肯定感が高いと考えられる。
- 「(8)困っている人を進んで助ける、(9)いじめは許されない、(10)大人に相談できる、(11)人に役立つ人になりたい」、などの肯定的回答がいずれも100%となっていることから、人との関わりや社会性においても高い意識をもっており、豊かな心の育ちがうかがえる。
- 「(12)学校生活が楽しい、(13)自分と違う意見について考える事が楽しい、についての肯定的回答が100%で、(14)友人関係に満足している」の肯定的回答が85.7%となっている。また、(15)毎日の生活で幸せな気持ちになる、の肯定的回答が100%となっていることから、児童の多くが学校生活に満足しており、人間関係や学びに前向きな姿勢が育まれていると考えられる。
- 「(21)学校以外での読書の時間について」多くの児童が30分以下ではあるが「(24)読書が好き」の肯定的回答が85.8%、となっていることから、読書週間や国語の学習の関連図書の紹介・図書室利用などに継続的に取り組み、読書の推進を継続していく。
- 「(25)自然体験、(26)地域での大人と積極的な関わり、(27)地域や社会に貢献したい」、についての肯定的回答が100%となっていることから、児童は地域とのつながりを大切にしており、地域社会の一員としての意識や、実践的な関わりが育まれることがうかがえる。
- 「(28)授業中のICT機器の活用、(29)タブレットを使った文章・プレゼンテーション作成、ネット検索による情報収集」などのICT機器活用に関する質問の肯定的回答が100%となっていることから、ICT機器を使い学習に取り組むことに抵抗がなく、また、使いこなしていると感じている児童が多いと考えられる。
- 「(31)自分の考えうがうまく伝わるように、話の組み立てを工夫する。」の肯定的回答が85.7%、「(32)授業の課題解決に自分から取り組む、(34)授業は自分に合っていた教え方になっている。(35)話合活動で新たな考え方につづいている、(36)授業で分かった点や分からなかった点を見直している。(37)授業で学んだことを生かしている。」の肯定的回答が100%となっていることから、児童は授業に主体的に取り組んでおり、全体として学びに対する意識の高さと充実感を感じられる。

その他、国語・算数・理科の学習に関するアンケートも肯定的回答の割合が高く、国語・算数・理科の学習に対して課題意識をもって充実した学習活動を行えていると感じている児童が多い様子がうかがえる。

宇都宮市立平石中央小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
<ul style="list-style-type: none">・基礎学力の向上・自己肯定感の向上・児童が自らの学びを見直し、理解や成長を実感する、振り返り活動の充実	<ul style="list-style-type: none">・漢字・算数ドリルやAIドリルを活用し、読み書き計算などの基礎学力の向上に取り組む。・児童の活躍の場を広げ、自他のよさを認める取り組みを推進推進する。・見通しを持った授業展開の工夫をしたり、振り返りの視点を示し、積極的に振り返りを書くようにしたりする。	<ul style="list-style-type: none">・国語・算数・理科の学力調査で、全ての教科が市の平均を大きく上回っていた。・(5)自分にはよいところがある。の肯定的回答が100%であった。・(37)授業で学んだことを生かしている。の肯定的回答が100%であった。